

特定外来生物

特定外来生物とは、日本に海外から移入された外来生物の中で、指定したものです。現在日本においては159種類の動植物が特

定外来生物に指定されています[令和5年9月1日時点]。大分市ではそのうち19種類が確認(かくにん)されています。

絶滅 EX

野生絶滅 EW

絶滅危惧ⅠA類 CR

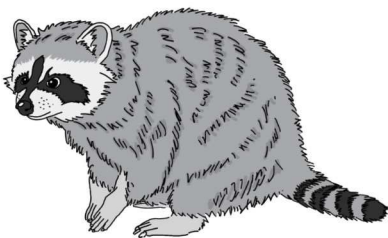
絶滅危惧ⅠB類 EN

絶滅危惧Ⅱ類 VU

準絶滅危惧 NT

情報不足 DD

絶滅のおそれのある地域個体群 LP



アライグマ

アニメの影響(えいきょう)でアメリカから輸入され飼育する人が増えましたが、人になつくことがあります。そのため日本中の森に逃がされ、増えてしまいました。雑食性で動くものを何でもつかまえて食べてしまうため、オオイタサンショウウオなど、在来の両生、は虫類、昆虫などが減ってしまいます。トウモロコシやスイカ、ブドウなど甘い農作物も食べてしまいます。

オオキンケイギク

アメリカから導入され、緑化や観賞用に流通しました。宿根草で株(かぶ)は年々大きくなり、種子でも増えます。花の咲(さ)く時期は5~7月。繁殖(はんしょく)力が強く、成長が速いので一気に周辺に広がって、ほかの在来の植物の生育環境をうばってしまいます。



ナガエツルノゲイトウ

アクアリウムの水草として南アメリカから導入。数センチのくきの断片(だんぺん)からでも再生する強い繁殖力を持っています。直径15mmほどの白い球状の花を咲かせ、1~4cmの花柄(かへい)があります。ため池や水田だけではなく陸地にも繁殖(はんも)します。ため池や水路で繁殖して水面をおおうことで水質の悪化を引き起こし、在来の魚類に影響を与えます。また田んぼに入り繁殖すると、稲の生育をさまたげ、収穫(しゅうかく)ができなくなることがあります。



セアカゴケグモ

オーストラリア原産で海外からの輸入木材やコンテナに付着して日本に移入されました。メスには毒がありますが、おとなしい性格なので、素手(すて)でさわったり、おしり(おしり)でふんだりして強い刺激(しげき)を与えなければ、かまれたりしません。自動車や自転車、植木鉢(ちまひ)などに付着して移動します。

ソウシチョウ



ソウシチョウ

ソウシチョウ・ガビチョウ

姿が美しく、よく鳴くことから観賞用として中国や東南アジアから輸入され飼育されてきました。鳴き声(な)がうるさすぎることで野外に放され、繁殖してしまいました。在来のウグイスやメジロのすみか(すみか)やエサ(えさ)をうばってしまいます。特定外来生物に指定された現在でも、知らずに違法(いほう)飼育されていることがあります。



オス



メス

カダヤシ

名前の通り蚊(か)の幼虫であるボウフラを駆除(くじょ)するためにアメリカから移入されました。卵(たまご)ではなく直接仔魚(しご)をうむため、繁殖に水草を必要としません。在来のメダカは卵(たまご)や仔魚(しご)をカダヤシに食べられてしまい、数が減ってしまいます。



ウシガエル

アメリカから食用として輸入されましたが、日本では食文化として受け入れられず、養殖(ようしょく)場から逃げた個体が野生化してしまいました。肉食(じゅうじく)の大食漢(たいしょくかん)で、水中では魚類(ぎょるい)や水生昆虫(せいすいこんちゅう)を、陸上(りくじょう)でも昆虫(こんちゅう)や節足動物(せつそくどうぶつ)をつかまえて食べてしまいます。動くものを手当たり次第(てあたいしだい)に食べてしまうため、在来の魚(いさな)、昆虫(こんちゅう)、は虫(むし)、両生類(りょうせいりゅう)が減ってしまいます。

イラスト:泉 海翔

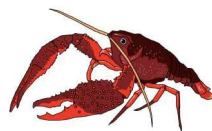
ミシシippアカミミガメ

子ガメがミドリガメという名前でペットとして日本全国で流通。寿命(じゅみょう)が最大で40年と長いので、飼いきれなくなり、ため池や河川に放流され野生化しました。雑食性(じゅうじきょう)で水草(すいそう)やエビ(えび)、カニ(かに)、魚類(ぎょるい)を食べるため、在来の動植物(どうじゅうぶつ)に直接影響(じょうけい)を与えるほか、ニホンシガメと競合(きやうごう)してすみかをうばってしまいます。レンコンやジュンサイなどの農作物も食べてしまいます。



アメリカザリガニ

ウシガエルのエサとして移入されましたが、養殖(ようじく)の衰退(すいたい)とともに放棄(ほうき)され、野外繁殖(やうびん)してしまいました。きたない水路(すいろう)などでも生きることができ、雑食性(じゅうじきょう)で水草(すいそう)から魚(いさな)、昆虫(こんちゅう)、甲殻類(こうかくるい)など何でも食べてしまいます。また、在来のニホンザリガニのすみかをうばってしまいます。



条件付特定外来生物

【その他に大分市で確認されている特定外来生物】

[哺乳類] クリハラリス [魚類] ブルーギル [昆虫類] ツマアカスズメバチ [植物] ブラジルチドメグサ、アレチウリ、オオフサモ、オオカワヂシャ、オオハンゴンソウ

条件付特定外来生物とは

2023年6月、アカミミガメ(ミシシippアカミミガメ、キバラガメ、カンパランドキミミガメ)とアメリカザリガニが“条件付”特定外来生物に指定されました。現在、アカミミガメは野性下に800万匹生息していると推定(すいてい)され、160万匹がペットとして飼育されています。アメリカザリガニは60万匹が飼育され、全都道府県で野生化が認(みと)められています。このように日本全国で広く生息し、飼育されている種が“条件付”特定外来生物に指定されたのは、両種が日本の在来生態系(さいたいせい)に与える影響(えいぎょう)がとても大きく、これ以上野外への放出(はうしゅつ)を看過(かんか)できない状況にあるためです。これらの動物を飼育している人は、命を全(ま)つとつうするまで責任(せきにん)をもって飼育を継続(けいぞく)してください。飼(か)い主(しゅ)個人(こじん)の様々な事情(じきょう)により飼(か)いしきれなくなった場合(ばいばい)でも、決して野外に放出(はうしゅつ)してはいけません。代わりに飼(か)いしてくれ(る)新しい飼(か)い主(しゅ)をさがす努力(なうり)を惜(お)しまないでください。どうしても新しい飼(か)い主(しゅ)が見つからない場合は、飼(か)い主(しゅ)個人(こじん)で殺処(ころ)分(ぶん)を(さつしよぶん)を検討(けんとう)する必要性(ひつせきせい)も出てきます。日本(にっぽん)における外来生物(がいらいせいぶつ)の野外(やうび)での繁殖(はんしょく)・増加(ぞうか)の一因(いちいん)は、「飼(か)いしきれなくなり、殺処(ころ)分(ぶん)するのはかわいそうだから野外(やうび)に逃(に)がしてあげる」という行動(こうどう)です。いったん飼(か)いするは(は)じめたら野外(やうび)に放(はな)すことは法律(ほり)で禁止(きん)されています。アカミミガメやアメリカザリガニを飼(か)っている人は、飼(か)いはじめた日(ひ)の気持ち(きもち)、好奇心(こうきしん)いっぱい(いっぱい)の目(め)で泳(およ)いでいる姿(すがた)やエサ(えさ)を食べる姿(すがた)を見つめた時(とき)の気持ち(きもち)を忘(わす)れないでください。

条件付特定外来生物 Q & A

アカミミガメ・アメリカザリガニは現在のところ、“条件付”特定外来生物であるため、他の特定外来生物では規制されることの一部が、当面の間規制がかかりません。以下のQ&Aを参考にしてください。

Q 条件付特定外来生物に指定される以前より飼育しているアカミミガメ・アメリカザリガニを飼育し続けるためには許可が必要?

A 許可は必要ありません。にげ出さないように対策(たいさく)を(た)い(たい)さ(さ)く(く)を(を)した(した)う(う)え(え)で(で)、寿(じゅ)命(めい)を(を)む(む)か(か)え(え)る(る)ま(ま)で(で)大(だい)切(せき)に(に)飼(か)い(かい)して(して)く(く)だ(だ)さい(さい)。

Q 野外から新しくアカミミガメ・アメリカザリガニをつかまえて飼育してもいい?

A 新しく飼育することに制限はありませんが、アカミミガメの寿命は最長40年、アメリカザリガニは5年と言われています。最後まで責任をもって飼育できるかよく考えてから持って帰りましょう。一度家に持ち帰った個体は、家族の反対にあったからという理由などで、つかまえた場所に戻すことはできません。

Q 今現在飼育しているアカミミガメ・アメリカザリガニを繁殖させてもいい?

A 繁殖させることに規制はありませんが、増えすぎたからといって野外に放出することはできません。生まれた個体も寿命を終えるまで責任をもって飼育する必要があります。

Q アメリカザリガニを食べる目的で、泥(どろ)ぬきするために生きたまま持ち帰ってもいい?

A はん布(不特定多数に広く配ること)や販売を目的として生きたまま持ち帰ることは禁止ですが、食べることを目的として、生きたまま持ち帰ることは規制されません。